

1 主の指標の評価

(単位:百万円)

指標	H21			H22			平成22年度 評価委員会の評価・助言	対応(進捗)状況
	計画値	実績値	達成状況	計画値	実績値	達成状況		
経常収益	580	587	○	589	599	○	ア 患者単価を上げる方が必要。 イ 慢性期の入院患者が多い。 ウ 地域住民にのみ必要な病院であれば、住民負担も考える。 エ スタッフの関係で救急を受け入れられないことがある。 オ 地域性で『入院』は必要。入院単価増を図る。	○診療報酬の加算の見直し等を行い、適正な収入確保に努めています。 ○介護・福祉施設との連携を一層強化し、在院日数の適正化に努めます。 ○限られた医師で救急医療を確保している現状では、必ずしも全ての救急患者を受け入れることができません。そのような中でも近隣の基幹病院と連携を密にし、スムーズに引き継ぎができるよう努めています。 ○より高度な医療が行えるよう院内で勉強会を開催するとともに院外での研修にも積極的に参加するよう努めています。
経常費用	580	578	○	573	584	×		
経常収支	0	9	○	16	15	×		
累積欠損金	276	256	○	259	254	○		
一般会計繰入金	111	120	×	132	178	×	ア 今後も継続できるか疑問。繰入に頼っている間は健全経営とは言えない。	○過疎地域の医療確保には不採算部門が多いため、国の繰入基準に基づく繰入は継続してお願いしたいと考えております。健全経営となるよう、経営努力に努めて参ります。
経常収支比率	100.0%	101.5%	○	102.9%	102.5%	×		
不良債務比率	4.8%	—	○	1.7%	—	○		
医業収支比率	91.3%	92.6%	○	92.0%	91.9%	×		
職員給与費比率	74.2%	72.5%	○	75.5%	72.8%	○	イ 比率が高すぎる。民間は46%以下、療養型50%前、公立・公的病院60%台。	○職員の平均年齢が高く、給与費が多くなっている傾向があります。今後退職する職員が増えてきますので新規職員の計画的な採用で給与比率を下げたいと考えています。
資金不足比率	4.2%	— (▲0.5%)	○	1.0%	— (▲5.6%)	○		
病床利用率	89.8%	85.1%	×	89.8%	84.3%	×	ア 4島の人口が年8%減少する中、患者10%増の目標はどうか。	○平成23年度上半期は、前院長の退職に伴い4月から8月の期間、院長が不在になった影響が大きく、患者数が大幅に減少しました。9月に新院長が着任して以降は回復していますが、23年度は前年度維持も難しい状況です。
入院患者数 (1日当たり)	44人	42人	×	44人	41人	×	(※)	
外来患者数 (1日当たり)	150人	122人	×	150人	125人	×		

(※) 平成20年11月の豊島大橋の開通による豊浜及び豊地区(人口:約4,300人)からの入院患者増を見込んでいたが、島民には、これまでのかかりつけ医としての中国労災病院等、大病院指向が強く根付いており、思うように患者を確保できていない。

2 主な取り組みの評価

項目	プランにおける行動目標	これまでの実施状況	平成22年度 評価委員会の評価・助言	対応(進捗)状況
ア 民間的 経営手 法の導 入	ア 業務の外部委託	すでに可能な業務のすべてについて実施している。		
	イ 委託業務の入札制度の導入	施設管理・清掃管理、給食業務について、19年度から入札制度を導入した。		
イ 事業規 模・形態 の見直し	ア 事業規模・形態	現行のまま直営を継続する。	<p>○地元のためにも存続すべき。</p> <p>○赤字でも維持しなければならない。</p> <p>○有床診療所(20床未満)へ転換、療養型病床、老人保健施設、特別養護老人ホーム等への転換、民間委託等を検討する。</p> <p>○病院と診療所の集約化が必要。</p> <p>○民間委託は、受けるところがないのでは。</p>	<p>○安芸灘島しょ部で唯一の一般病床を有する病院として、また唯一の救急告示病院として、地域住民の安心安全の確保には欠かせない施設であると認識しており、市直営での経営を維持します。</p> <p>○事業規模については、地域のニーズや情勢を踏まえながら、医療の集約化など継続して研究していきます。</p>
	イ 不採算診療部門の見直し	継続して見直しを検討する。	<p>○患者数の少ない診療科目は診療中止。</p> <p>○内科をメインに、その他をどうするか。</p> <p>○東洋医学研究所の患者数が減少している。</p> <p>○蒲刈診療所は、小児科もやっているのに1日15名は少ない。往診を増やすなど、収入を増やす対策が必要。</p>	<p>○眼科、耳鼻咽喉科の診療は患者数が少なくなっていますが、4島にこれらの診療を行っている医療機関がないことから、当面は維持していきます。</p> <p>○定期的に受診されていた方の死亡などにより患者数が減少しておりますが、豊浜町、蒲刈町などでの健康教室の開催やケーブルテレビでの健康講座の放映などのPRにより、新たな患者の獲得に努めています。</p> <p>○今後は、訪問診療に力を入れていく方針としています。</p>
ウ 経費削減・抑制 対策	ア 医薬品及び医薬材料等の効率的な在庫管理	医療機器更新を必要最小限に留めるとともに、薬剤管理を電算システムで効率的に行った。		
	イ 大型契約の更新の際は業務内容を厳格に精査する	平成22年度から、施設管理・清掃管理を分割発注し、競争性を高め経費削減を行った。		
	ウ 蒲刈診療所との医薬品・医薬材料等の共同購入・融通について検討	蒲刈診療所の材料費が少額であるため、効果が見込めない。		
	エ 再任用職員及び任期付き職員の活用を図る	退職者の補充を再任用職員及び任期付職員で行った。		
エ 収入増加・確保 対策	ア 豊浜・豊地区の医療機関からの救急搬送患者の受入れを強化	豊浜及び豊地区の医療機関や消防と連携を図り、救急患者・紹介患者を可能な限り受け入れた。	<p>○4島の医療機関や消防との連携を密にする。</p> <p>○豊浜・豊地区住民への周知には、もう少し時間がかかる。</p> <p>○4島でのオープンベッド活用。</p>	<p>○消防及び4島の医療機関と救急に関する連絡会議を平成21年度から当院で行っております。引き続き連絡が密になるよう努めています。</p> <p>○当院の鍼灸師がケーブルテレビや健康祭などで健康教室を行って病院のPRに努めています。</p> <p>○開放型病院となるためには、施設基準(5床以上の開放病床が必要、登録医療機関が20以上等)を満たす必要があり、現状ではかなり難しいと思われませんが、検討を続けて参ります。</p>
	イ 豊浜・豊地区の医療機関からの検査を要する患者の積極的な受入れ	継続して実施している。		
	ウ リハビリを強化することによる地域連携バスを活用した急性期病院からの患者の受入れ	スタッフ不足により受入患者数を増やせない。	<p>○理学療法士を増やし、中国労災病院の後方支援病院として術後のリハビリをもっと受け入れてはどうか。</p> <p>○理学療法士を増員し、院内で健康教室などを開催することで、住民が気軽に足を運べる場所にしてはどうか</p>	<p>○リハビリに力を入れるため、23年度から作業療法士を1名増員しました。9月に着任した院長は、リハビリの専門医でもあり一層充実して参りたいと考えております。</p> <p>○理学療法士、鍼灸師などによる健康教室を年数回、院内で行っております。この取り組みを継続し、より住民が気軽に足を運べる場所になるよう努めます。</p>

エ	安芸灘島しょ部地域の医療機関、地域医療支援病院である中国労災病院との連携強化による病床利用率の向上	地域内の医療機関や市内大病院に空きベッド情報を提供し、病床利用率の維持に努めた。	○中国労災病院を含む近隣の医療機関との連携強化を。	○消防及び中国労災病院、4島の医療機関と救急に関する連絡会議を平成21年度から当院で行っております。引き続き連絡が密になるよう努めて参ります。
オ	地域内の医療機関・介護施設の医療ソーシャルワーカー・ケアマネージャーとの連携強化による、空きベッド等の情報交換	ケアマネ等と連携会議をもち、患者の入退院の円滑化を図った。		
カ	ターミナルケアによる患者の一時受け入れの強化	連携病院等からの受入を行っている。	○受入体制を強化し、診療単価アップを図る。 ○ターミナルケア(終末期医療、終末期看護)を考えられる病院に。	○平成23年9月から常勤医師を従来の3人体制から、4人体制としました。今後もターミナルケアに応えられる病院になるよう充実を図って参ります。
キ	訪問歯科診療の強化などによる、歯科診療の充実	スタッフの確保が安定し、患者の受入増が図られ、外来患者が増加した。		
オ その他	医療安全、感染対策、接遇等の研修への積極的な参加による、職員の資質の向上	院内研修を活発に行い、また外部研修にも積極的に参加するなど、職員の資質向上に努めた。	○看護師のレベルアップ(褥瘡、感染対策) ○中国労災病院等での看護研修への参加。 ○地域研修会へ積極的に参加。	○院内で定期的に医療経営、医療技術等に関する研修会を開催しております。また院外の研修にも職員を積極的に参加させております。23年度はこれらの研修に加え、新たに接遇の研修を行う計画としております。今後もこうした取り組みを継続、発展させ職員のレベルアップを図ります。
イ	医療専門職の確保のため、大学・看護学校等への働き掛け	継続して実施している。	○研修医の積極的な受け入れによる職場の活性化。研修医にはへき地での往診は歓迎される。	○平成23年度は、6月から1月の間で7名の国立病院機構呉医療センター研修医の地域医療研修を受け入れました。今後も研修を積極的に受け入れて参ります。
ウ その他			○職員のコストに対する意識改革が必要。 ○健康作り教室等の開催で、人が集まる仕掛けづくりを。	○職員一人一人が経営感覚を持って職務に取り組めるように、病院内で月1回の運営会議を行い、経営状況を職員間に周知すると共に経営、環境等の改善について協議を行っております。また、院内で定期的に医療経営、医療技術等に関する研修会を開催しており、また、院外の研修にも職員を積極的に参加させています。 ○医師、理学療法士、鍼灸師などによる健康教室を年数回、院内で行っております。この取組を継続して、より住民が気軽に足が運べる場所になるよう、努めて参ります。